

再評価結果（平成20年度 事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局 街路課

担当課長名：松谷 春敏

事業名	都市計画道路 <small>とおかまちふたばちようせん</small> 十日町双葉町線 <small>さいわいちよう</small> （幸 町工区）	事業区分	街路	事業主体	山形市
起終点	自：山形県山形市五日町 <small>いつかまち</small> 至：山形県山形市香澄町三丁目 <small>かすみちよう</small>	延長	0.44km		
事業概要					
都市計画道路十日町双葉町線は、山形市の駅環状道路の一部として位置付けられている重要路線であるとともに、鉄道のアンダーパスにより東西に分断されている都心部の良好な市街地形成を支援する路線でもある。					
H10年度事業化	S38年度都市計画決定 (H5年度変更)	H10年度用地着手	H16年度工事着手		
全体事業費	153億円	事業進捗率	74%	供用済延長	km
計画交通量	13,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 18.2	総費用 (残事業)/ (事業全体) 29/172 億円 事業費：29/172億円 維持管理費：0.05/0.05億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 529/529 億円 走行時間短縮便益：520/520 億円 走行経費減少便益：10/10 億円 交通事故減少便益：-1.2/-1.2億円	基準年 平成19年	
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保（駅周辺のアクセス向上が見込まれる） ・都市の再生（隣接する土地区画整理事業との連携により駅周辺の活性化が見込まれる） <p style="text-align: right;">他3項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
十日町双葉町線は、駅周辺の都市機能強化に欠かせない事業として期待されており、山形市をはじめ関係31市町村の首長で構成される山形県都市計画協会より早期整備の要望(平成19年11月5日)を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
隣接して事業が進められている区画整理事業の進展により周辺地区の渋滞がますます深刻化するとともに、まちづくり三法の施行により中心市街地活性化が市の喫緊の課題となっている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
現在、鉄道アンダー部の施工をJR東日本に委託し平成20年度完成を目処に施行中であり、前後の取り付け部を含め平成23年度完成を目指し事業を推進中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
山形ガス、JA山形市本店、JR貨物ターミナル等の大型補償物件が既に完了しており、平成23年度完成に向け鋭意工事を進めている。					
施設の構造や工法の変更等					
鉄道横断部をパイプーフ工法からHEP&JES工法に変更し事業費の縮減を図っている。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					
別紙 参照					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

十日町双葉町線(幸町工区) 事業概要図

